

## 活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日： 令和 7 年 6 月 17 日 報告者： 川口 由佳

行事種別	研究会	行事番号	250002009
開催日	令和 7 年 6 月 7 日(土)		
時間	開始	15 時 00 分	終了 17 時 00 分
場所・配信	八千代病院 2 階大会議室 (所在地 安城市)		
テーマ	胚盤胞について ～基礎編～		
生涯教育履修点数	専門教科	20	点
司会	藤田医科大学病院	及川彰太	技師
講師	1. JA 愛知厚生連 江南厚生病院 伊藤康生 2. トヨタ記念病院 芦野実咲 3. 名古屋大学医学部附属病院 黒川理菜		
内容	1. 当院での胚盤胞評価について 江南厚生病院での胚の培養・観察方法、評価方法、移植基準についてご講演いただきました。形態的評価は侵襲が少なく一般的ではあるが、スタッフ間で評価が異なることや主観に左右されやすく再現性に乏しいため、内部制度管理・外部制度管理の必要があることを説明していただきました。 2. 各施設での胚盤胞評価 トヨタ記念病院の場合 トヨタ記念病院での胚の培養方法、観察方法、移植・凍結基準についてご講演いただきました。タイムラプス撮影を利用した胚の観察方法、評価に迷った場合の判定方法など動画を見ながら評価ポイントや注意点を解説していただきました。 また、患者さんとの胚の状態評価の認識のずれがあった症例についても説明していただきました。 3. みんなでやってみよう！胚盤胞評価 Google フォームを利用し、10 個の胚盤胞の写真を見てそれぞれの評価を回答し、集計結果を提示していただきました。評価にかなりばらつきがあること、紹介状の内容や学会等でのデータは必ずしも自施設の評価とは一致しないため注意が必要だと説明していただきました。		
参加者	合計：20 名 (会員 14 名、県外会員 0 名、講師 3 名、実務委員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名) 事前参加申込数：21 名		
共催、後援など	無		

合計：現地開催 (講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信 (講師・実務委員・レポート提出者)

## 活動報告書

所属：生殖医学研究班

提出日： 令和 7 年 9 月 6 日

報告者：及川 彰太

行事種別	講演会	行事番号	250007970
開催日	令和 7 年 9 月 6 日(土)		
時間	開始	14 時 00 分	終了 16 時 30 分
場所・配信	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（所在地 名古屋市）・現地のみ		
テーマ	男性不妊を学ぼう（精液検査の基礎、男性不妊の基礎）		
生涯教育履修点数	専門教科	20	点
司会	八千代病院 小笠原 恵 技師		
講師	「精液検査の基礎」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 蓼沼 美砂 「男性不妊の基礎」-生殖医療センターの取り組みと男性不妊症の現状- 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 泌尿器科教授 梅本 幸裕		
内容	<p>1. 「精液検査の基礎」</p> <p>WHO から発刊されている精液検査ガイドライン第 6 版に基づき精液検査の基礎について説明していただきました。精液量については、重量法と容積法について説明していただき、容積法はシリンジを用いて測定するため過小評価をしてしまうため非推奨方法であることについて教示いただき、有用な情報提供となりました。愛臨技精度管理事業のアンケートでもあるように県内医療機関の精液検査はマクラー計算盤が多く使用されています。簡便に精液検査を実施できるものの、WHO の推奨する計算盤ではないため、本講演を聞くことで精子数や運動精子率の正しい検査方法を今一度学ぶことができました。</p> <p>演者の所属施設の妊孕性温存のための精子凍結に関するお話もありました。がん治療後の妊孕性確認した結果についてもお話しいただき、がん治療後も自然妊娠した症例もあることを教示してもらいました。がん治療後の患者については継続的に精液検査をして評価をする必要があることをお話ししていただきました。参加者からは精子凍結しているものの更新に関する案内を出したものの連絡がつかない場合はどうしているかなど活発なディスカッションが行われました。</p> <p>2. 「男性不妊の基礎」-生殖医療センターの取り組みと男性不妊症の現状-</p> <p>西部医療センターに生殖医療センターが開設された経緯から始まり、不妊症の疫学、男性不妊症、精巣内精子採取術（TESE）、精索静脈瘤のお話をしていただきました。</p> <p>日本は出生数が劇的に減少しており、人口動態統計を基に現在の日本の合計特殊出生率や第一子出産時の女性年齢を提示していただきました。疫学を学ぶ機会が少ないため新しい知見を得ました。</p>		

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

	<p>不妊原因の半分は男性因子であるものの、男性不妊症についてはいまだに知られていない実情について触れ、泌尿器科が関与できる停留精巣は不妊症につながるだけではなく癌化すること、尿道下裂は陰茎が曲がってしまい性交渉を取れないことがあるなど、臨床検査では学ぶことのできないたくさんのお話をいただきました。</p> <p>精子形成のメカニズムの中で精巣容量、ホルモン値を診断に使うこととお話ししていただきました。なぜ精巣容量を検査することが重要なのかを分かりやすく解説していただきました。</p> <p>精索静脈瘤は演者施設の精索静脈瘤手術の動画を供覧していただき、手術の解説をしていただきました。また、精索静脈瘤手術を施行した患者の術後の不妊治療の成績を教示していただきました。手術を契機に不妊治療をステップダウンで妊娠成立したことをお話ししていただきました。</p> <p>参加者からは癌治療後の患者の精液中に精子を認めた場合、射出精子を用いた ART がいいのか、それとも TESE 精子を用いた方がいいのかなどの質問があり、演者から分かりやすく回答をしていただきました。</p> <p style="text-align: center;">以下余白</p>
参加者	合計：31 名（会員 26 名、県外会員 0 名、講師 2 名、実務委員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：29 名
共催、後援など	無し

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

## 活動報告書

所属：生殖医学研究班

提出日： 令和 7 年 12 月 13 日

報告者：小笠原 恵

行事種別	研究会	行事番号	250016329
開催日	令和 7 年 12 月 6 日(土)		
時間	開始	14 時 30 分	終了 16 時 30 分
場所・配信	岩倉市生涯学習センター会議室 2 (所在地 岩倉市) ・現地のみ		
テーマ	胚盤胞について～応用編～		
生涯教育履修点数	専門教科	20	点
司会	トヨタ記念病院 芦野 実咲 技師		
講師	「アシステッドハッチングについて」 豊橋市民病院 川口 由佳 「胚盤胞の TE 生検について」 藤田医科大学病院 及川 彰太 「透明帯一部除去による残存割球除去」 八千代病院 田中 祥		
内容	<p>3. 「アシステッドハッチングについて」 アシステッドハッチングの基礎となる原理をわかりやすく説明していただきました。特に、レーザーによる AH では、対物レンズや等温線の温度分布を具体的な図形を用いて解説していただき、深く理解できました。豊橋市民病院における AH の具体的な実施方法として、新鮮胚移植は移植の 1 時間前、凍結融解胚移植は 1 時間前～1.5 時間前に凍結胚の融解のタイミングに合わせて実施するという実践的な臨床的情報も得られ、大変有益な学びとなりました。</p> <p>4. 「胚盤胞の TE 生検について」 PGT (着床前遺伝学的検査) の基礎として PGT-A、PGT-SR、PGT-M の本質的な違いをわかりやすく説明していただきました。特に、藤田医科大学病院による TE 生検の「実技動画」は大変勉強になりました。熟練された手技が鮮明に記録されており、ホールディングピペットの選定やディッシュデザインの緻密なセッティングの重要性が一目で伝わってきました。TE 細胞の採取数 (4～8 個) の緻密な作業や、チュービング方法における具体的な工夫やご苦労された点まで、臨場感をもって学ぶことができました。PGT の結果の見方もわかりやすく説明いただき、臨床にすぐに役立つ内容でした。最後に、技術の進歩の裏側にある、胚へのダメージや移植に至らない可能性といったデメリットについても言及があり、PGT を多角的に捉えることの重要性を再認識しました。PGT が孕む「命の選別」という重大なテーマ、すなわち出生前診断の倫理的観点から深く考察する機会を得ることができ大変有意義な時間となりました。</p>		

合計：現地開催 (講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信 (講師・実務委員・レポート提出者)

	<p>5. 「透明帯一部除去による残存割球除去」</p> <p>RIF（反復着床不全）の説明に続き、八千代病院における適応となる胚の選定基準について学びました。レーザーアシステッドハッチング (LAH) の技術を応用した「EmbryoPlasty」（以下 EP）により、胚盤胞発育を妨げる要因の1つである残存割球を除去する具体的な手技を、動画を用いて説明されました。EP を実施した胚盤胞が経時的に拡張され改善されているのがわかりました。実際に妊娠・出産に至った症例における、詳細な残存割球除去の方法が説明され、臨床応用への知見を深めることができる有益な研修でした。</p>
参加者	合計：20名（会員20名、県外会員0名、講師3名、実務委員2名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名）事前参加申込数：18名
共催、後援など	無し

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）